

環境報告書

1、環境方針

(環境理念)

(有)山形パッケージセンターはロジステックス専門企業として、環境保全の重要性を深く認識し、保管、運輸、流通加工などの事業活動を通じて、自然環境の保全に留意し、循環型社会の形成をめざし、地域、地球環境の維持、向上に貢献する。

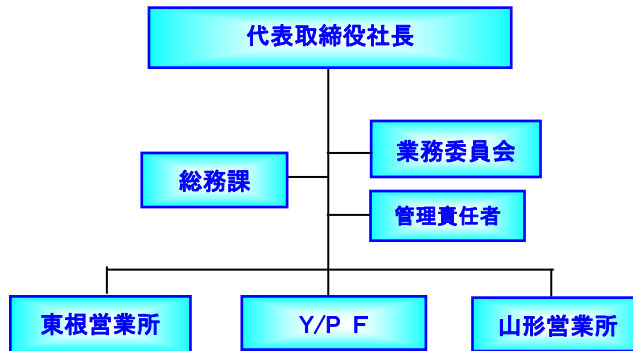
(環境方針)

1. 事業運営において、環境マネジメントシステムを構築し、運用する。
2. 当社の事業活動における環境側面を認識し、継続的な環境マネジメントシステムの向上と環境汚染の予防に努める。
3. 環境側面に適用可能な法令、条例および当社が受入れた利害関係者の要求事項を順守する。
4. 以下の項目ごとに目的、目標を定め、継続的改善を推進するとともに、内部監査結果などにより見直しを行う。
 - ① 消費エネルギーの削減
 - ② 処理委託廃棄物量の低減
 - ③ 危険物及び化学物質の管理強化
5. 当社の全従業員は、本方針を認識し構築した環境マネジメントシステムを有効に活用する。
6. 本方針は、全従業員に周知するとともに、一般にも公開する。

(有)山形パッケージセンター
代表取締役社長

2、環境マネジメントシステム

1) 推進体制



2) 環境監査

環境マネジメントシステムが有効かどうか内部監査を年 1 回以上実施するほか、定期的に認証取得機関による外部監査を実施しています

3) ISO14001 への取り組み

当社は、ISO14001 環境マネジメントシステムが環境保全に有効であると認識し、構内の関連会社と一体となった環境保全活動を推進し、2006 年 10 月 18 日に認証を取得しました。

3、環境行動目標と成果

1) 環境方針に基づいて行動目標を定め活動を展開しています・

行動目標に対する 2008 年度の主な結果は次の通りです

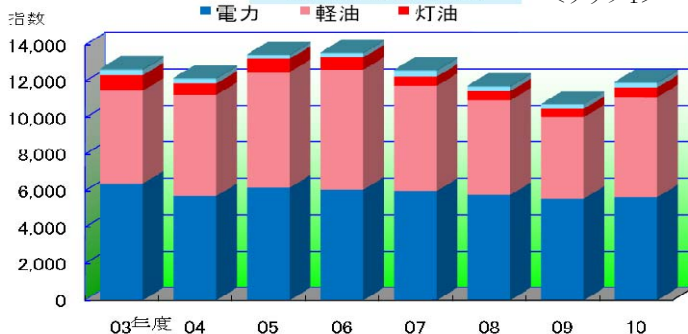
<表 1>

活動項目	主な行動・目標	主な活動・結果
省エネルギー (グラフ1、2 参照)	① 電力量を 2005 年度基準に 2010 年度までに 5%削減する ② 運送トラック燃料を 2005 年度基準に 2010 年度までに 5%削減する	省エネ活動は、空調機の温度設定、窓のUVカットフィルム施工、電力使用量は'05 年度対比本年度は 8.45%(目標 2%)削減しました。 トラック燃料は、エコ運転教育等で、13.52%の削減(目標 2%削減)しました。
廃棄物削減/省資源・リサイクル (グラフ 3、4 参照)	① 分別排出の徹底やリサイクルの拡大により 2005 年度基準に 2010 年度までに 5%削減する。	一般廃棄物は、26.9%(目標 1%)削減 プラスチックリサイクル化を全社で展開し、分別意識が向上した。 倍包装用部材などの資源化活動で '05 の 3.03 倍を資源化できました。
危険物保管管理	危険物指定数量の法順守 危険物(含化学物質)流出ゼロ	指定数量日々管理システム構築維持管理 流出時の対応と準備を整備し、各営業所で訓練およびテストを実施しました。

エネルギー削減推移

('05対比 金額ベース)

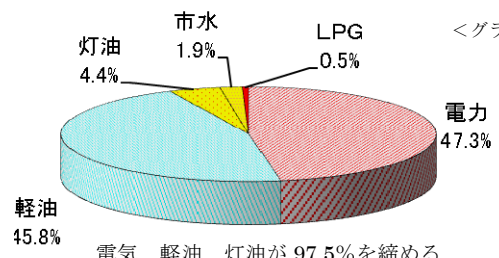
<グラフ 1>



<グラフ 1>

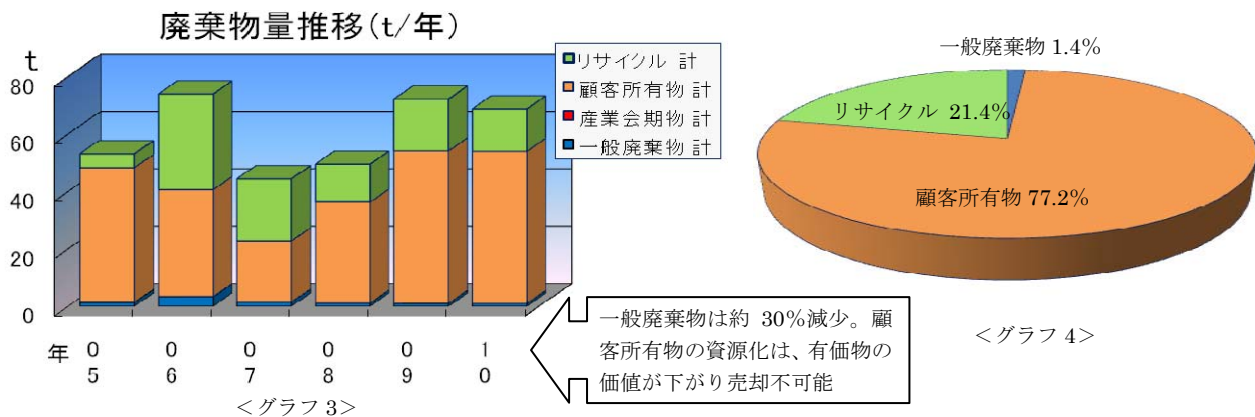
'10 エネルギー比率(金額ベース)

<グラフ 2>



電気、軽油、灯油が 97.5%を締める

<グラフ 2>



4、環境教育とコミュニケーション

1)環境教育

環境スキルと意識の高揚を図るため、各部門及び推進事務局において毎年環境教育を計画し実施しています。内容は、自覚、訓練、能力教育を社内及び外部セミナーへの参加を実施しています。また、法的資格取得のため、外部セミナー等へも積極的に参加しています。

2) 地域社会の環境保全

「美しい心、美しい企業」をスローガンに掲げ、「グリーンカード」制度をつくり、功績のあった社員を表彰しています。また、地域周辺のクリーン作戦を全社あげて実施(写真参照)することや、全社員にエコバックを配付し意識の高揚に努めています。



本社に隣接する地域に小中学校がある。



収集したゴミを分別しながら環境を学んでいる。

3) 「環境報告書」をホームページで公開

当社のホームページで環境報告書を掲載し、環境に関する情報公開をしています。

5、環境会計

～環境保全のためにいくら費用を使ったの?～ <表 2>参照

環境会計では、環境保全活動の収支と効果を明らかにして、投資や費用に対する効果を知ることで、環境経営の効率化や経営資源の適切な配分を図るために活用します。

弊社の主要な環境保全コストには、ISO14001 運用コストや教育訓練コスト、倉庫部門環境負荷削減として照明設備の点検コスト、運輸部門ではトラックなどの輸送車両の自主点検コスト、資源循環活動として包装資材のリサイクル、リスク対策として危険物倉庫のリスクマネジメントコストとなっています。

収支バランスは、まだ投資を超えていませんが、社会への貢献度と認識し、今後も活動展開してゆきます。

以上

‘10 環境会計報告書

<表2>

項目	内容	支出		収入		備考(主な活動内容)
		①設備投資費	②人件費	③経済効果	環境負荷低減(Co2-Kg)	
省資源活用	電力削減対策		75	560	9,163	省エネ設備改造
	軽油削減対策		125	362	14,069	車両点検整備、エコ運転推進
	灯油削減対策		5	219	7,215	冷暖房温度設定、点検
	地下水		3	電力に含む	-	
	市水削減対策		3	-30	-79	トイレ貯水量調整、擬似音設置
	事務用紙削減対策		25	-7	0	書類の電子化
	その他 LPG		0	-21	-42	
資源循環活動	廃棄物の再資源化対策		100	0	9,849	ラッピングフィルムの資源化活動
	発生量抑止対策		50	0	50	プラスチックリサイクル推進活動
			0			
リスク対策	公害防止対策	168	0		-	防油堤整備
	遵法対策		40		-	
	化学物質管理対策		100		-	教育訓練実施、MSDS管理充実
	廃棄物管理(マニフェスト)		150		-	マニフェスト管理充実
			0			
サービス環境配慮	エリアの上下流		0		-	
環境活動	人件費、人材育成費	810	400		-	教育訓練
	社会貢献		500			地域清掃活動(各営業所)
	情報公開	100	125		-	HP 公開、方針公開
	緑化		25		-	緑化整備
合計	合計	1,076	1,725	1,084	40,224	
収支	収支(経済効果-設備投資額-人件費)			-1,717	-	

以上

代表取締役

奈良崎 浩生